

科学研究費助成事業（特別推進研究）中間評価

課題番号	18H05204	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和6(2024)年度
研究課題名	格差の連鎖・蓄積モデルからみた ライフコースと不平等に関する総 合的研究	研究代表者 (所属・職) (令和3年3月現在)	石田 浩 (東京大学・特別教授室・特別教 授)

【令和3(2021)年度 中間評価結果】

評価	評価基準	
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(研究の概要)		
<p>本研究は、日本社会の階層構造について、若年・壮年、中高年層にわたって大規模なパネル調査を積み重ねることによって、年代を通じたライフコースの中で、格差、不平等の蓄積・連鎖過程を実証的に分析しようとするものである。</p>		
(意見等)		
<p>本研究は、複数の大規模パネル調査を積み重ねることにより、日本社会の階層構造とライフコースの関係を捉え、格差・不平等の蓄積・連鎖過程を実証的に分析しようとするものである。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響下においても、順調に研究が進展していると評価でき、調査の実施や分析のみならず国際的な研究成果も上がりつつある。加えて、2020年度実施の特別ウェブ調査により従来のパネルデータにコロナ禍の状況を組み込んだデータを構築しつつあることは、社会的意義も大きいと思われる。</p> <p>一方で、個人がライフコース上の各時点で直面する社会経済的環境の多様性や変化については、更に具体的に留意した研究が進展することを期待したい。</p>		